

2026年度(令和8年度)福山市立加茂小学校 グランドデザイン

こどもの実態

- 興味のあることには意欲的で、継続的な積み重ねによる学力の伸びが見られる。
- 素直で感情豊か、他者を自然に受け入れる優しさがある。
- 「基礎・基本」の定着や思考力・表現力が十分ではない。
- 授業では一部の児童の発言に依存する傾向にある。
- 挨拶の返事が少なく、声が小さい。指示待ち・あきらめが早い。
- 体力の二極化が進んでいる(体カテスト3年連続低水準)。
- ゲーム・スマホの使用時間が長く、家庭学習の時間が短い。

学校教育目標

ともに 学び合い 高め合う ～自分を磨き 高める～

〈めざすこども像〉
自ら問いを立て、粘り強く課題解決に取り組むこども
学びを自分事として捉え、社会・地域へつなげるこども

個を鍛えられてこそ集団が高まる。

集団が高まることでさらに個が伸びる。

保護者・地域の願い

- 児童が安全・安心に生活できる学校
- 地域の特性を生かした教育活動の実施
- 学力・体力の向上
- 小中学校でつながりのあるカリキュラムの実現
- 社会に出て役立つ力を小中9年間で育む
- 失敗から学べる場を学校・家庭でつくる

育成する資質・能力

課題発見・解決力

- 学習したことや体験したことを結びつけ、「なぜ」「どうして」と自ら問いを見つけることができる。
- 解決に向かう中で失敗しても別の方法を試したり、仲間の意見を取り入れたりすることができる。
- 活動の過程を振り返り、次への課題へ意欲をつなげることができる。

コミュニケーション力

- 自分の意見を論理的に説明できる。
- 相手の反応を見ながら、質問や付け足しをして対話することで、考えを広げたり深めたりすることができる。
- 時と場に応じたふさわしい挨拶や言葉遣いを選択し、相手を思いやった態度で接することができる。
- 地域の課題を考えて解決しようとするなど、地域に貢献することができる。

あきらめない心

- 納得するまで何度も挑戦することができる。
- 「どうすれば伝わるか」「次はこうしてみよう」と自分なりに方向を修正して再挑戦できる。
- 困難に直面した時、周囲と意見を出し合って「共に」解決の糸口を探ることができる。

テーマ

「自ら学び、考え続ける加茂っ子」の育成

～問いを作り出す教材の工夫と学び方を自己選択する授業づくりを通して～

研究

内容等

- ・児童の思考を揺さぶる教材提示と「問い」の創出
- ・「型」から「対話」へつなげるコミュニケーション指導
- ・過程を価値づける「意味のある振り返り」
- ・話し合い活動・振り返りの型の統一と継続的な確認・更新
- ・自己調整力を高める家庭学習・加茂タイムの充実

めざす授業の姿

- ① 自ら問いを立て、学びを自己決定する授業
- ② 豊かな語彙を使い、仲間と最適解を求める対話のある授業(聞く・書く力の育成)
- ③ 試行錯誤のプロセスを価値づけ、粘り強く学び抜く授業

6つの重点取組

継続

ふるさと学習

地域とともにある学校
コミュニティスクール
地域素材を活用した学習の実践

継続

幼保小中連携教育

幼保小中の学びの接続
カリキュラム開発校
こども・教職員の交流と連携

更新

「問い」を軸とした授業改善

自己選択・自己決定の学び
授業研究・事後研修の充実
リフレクションシートの活用

強化

安心できる集団づくり

いじめ・不登校の未然防止
あいさつ・そうじ・そろえる
相手意識・目的意識を重視した特別活動

一点突破

体力向上(持久力)

体育授業での運動量確保
月1回以上の運動・遊びの引き出し提示
3年連続低水準からの脱却

更新

地域創生・地域貢献・地域

住みたい町づくりへ貢献
教科・領域の学びを書き手として発信
地域参画・地域宣伝